

JACIII 用 LaTeX クラスファイルの使い方 How to Use a LaTeX Class File (jaciiiarticle.cls)

jaciiiarticle.cls 担当
jaciiiarticle.cls Group
Fuji Technology Press Ltd.

jaciii@fujipress.jp,
<http://www.fujipress.jp/jaciii/download.html>
Summary
This is the guide for *jaciiiarticle.cls*, for the Journal of
Advanced Computational Intelligence and Intelligent
Informatics.

1 まえがき

このスタイルファイル(*jaciiiarticle.cls*)は, Journal of
Advanced Computational Intelligence and Intelligent
Informatics(富士技術出版株式会社発行)に掲載される論
文を作成するために専用のclass file として作成されたもの
です. *LaTeX2* のVersion 3.14以降を対象としています.
このスタイルファイルは本誌の組版体裁に従って調整してい
ますので,スタイルファイルの変更は一切しないでください.

LaTeX2 用のクラスファイル

jaciiiarticle.cls 論文用クラスファイル
jaciiiarticlefont.clo クラスファイルに付属するファイル

補助用の*jaciiiarticlefont.clo* は*jaciiiarticle.cls*が正常に働く
ため必要ですので*jaciiiarticle.cls* と同じholder(directory) 内
においてください.

1.1 このガイドの構成

JACIII の原稿は次のように分類されています.
Review
Paper, (Research paper, Paper for special Issue Ge
neral paper)
Development paper
Letter
Note

2章ではそれぞれ英語の論文の原稿のため定められている
書式と固有の注意点について述べます.
3章は図表の注意で, *PostScript* ファイルの取り込みに関す
る規定などを述べます. 4章は数式に関する注意です. 5章は
参考文献に関する注意点で, 最後の6章は, 提出するファイ
ルに関して述べます.

2 英語論文の形式

JACIIIに投稿される場合にはclassfileとして*jaciiiarticle.cls* を
使用してください, オプションとして([/ 内) 下記のを指定
すればそれぞれ表1に示す特有のformatを指定することがで
きます. 指定がなければ'paper.'になります.

論文形式	オプション名
<i>Paper</i> (論文)	<i>default, or paper</i>
<i>Review paper</i> (総説)	<i>review</i>
<i>Development paper</i>	<i>development</i>
<i>Letter</i>	<i>letter</i>
<i>Note</i>	<i>note</i>

表1. 論文形式とオプション名の対応

例えば, 論文であれば次のようになります.

```
¥documentclass{jaciiiarticle}
```

これらのオプションと共にまたは独立に*referee*を指定すると

```
¥documentclass[referee,review]{jaciiiarticle}
```

著者名などを伏せた査読用の原稿が出力されます.

2.1 原稿の書き方

図1 に原稿の全体構成を示します.

* コマンドの意味と用法

¥SetVolumeNumber{巻号番号}

¥SetVolumeNumber{Vol.1 No.1, 2003} のように巻数・
号数(2003年第1巻 第1号)を指定します. 論文が採
録されて 掲載号が通知されたのち正しい巻と号を指定
します. よって, 投稿時には指定できませんし, 指定し
なくても問題ありません.

¥setcounter{page}{ページ番号}

¥setcounter{page}{100}のように初めのページ番号を
指定します. 投稿時にはページ番号が確定できませんの
で, 指定しなくても問題ありません.

¥title{英文タイトル}

タイトル(英語)を書きます. 前置詞, 接続詞, 文中冠
詞等を除き単語の先頭文字を大文字にします. タイトル
中に改行(¥)を指定すれば, タイトル中で改行でき
ます.

¥author{著者名のリスト}

¥author{1st author, 2nd author, ..., and last author}
のように著者名のリストを書きます. 後のアドレスと
対応を付けるために異なるアドレスを持つ著者がいる
場合には著者名のあとに $\$^*\$, \$^{**}, \***
のようにasterisk記号を上付きでつけてください.
全員が同じ所属であれば必要ありません. また, 最後の
著者の前には", and last author"としてコンマも忘
れないでください.

¥address{アドレスのリストとe-mail address}

```
¥address{Fuji Technology Press Ltd., 4F Toranomon  
Sangyo Bldgs. 2-29, Toranomon 1-chome Minatoku,  
Tokyo, 105-0001 Japan¥¥  
E-mail: TAE00762@niftyserve.or.jp¥¥  
2番目のアドレス¥¥  
...}
```

のようにして、著者の所属と住所、E-mail addressを書きます。複数の著者が異なる所属である場合には、¥authorで定義したasterisk記号を以下のようにいれてください。

```
¥address{¥^*¥Fuji Technology Press Ltd., ...}
```

¥dates{原稿投稿日}{原稿受領日}

原稿の投稿日と受領日を書きます。投稿時点では指定する必要はありません。

¥markboth{ヘッダー著者名}{ヘッダータイトル}

ヘッダーに出力する著者名とタイトルを定義します。性と名の頭文字の間にコンマを入れてください。著者が3人以下の場合は以下のように書きます。

```
¥markboth{Hayashi, K., 2nd author, 3rd author}{title}
```

著者が3人を越える場合は、1st authorのイニシャルのあとに "et al." をつけて下さい。

```
¥markboth{Hayashi, K. et al.}{title}
```

タイトルは基本的には¥titleで指定したものと同じですが、改行などの微調整をすることができます。

¥pagestyle{jaciiistyle}

JACIIIのページスタイルを読み込むために必要ですので必ず指定してください。

¥maketitle

JACIIIフォーマットでタイトルを出力します。

*abstract

概要を書くための環境です。

*keywords

keywordを書くための環境です。各keywordは以下のようにコンマで区切って半角のスペースを空けてください。(keywordは全て小文字で入力してください)

```
keyword1, keyword2, keyword3, ...
```

*acknowledgment

謝辞があれば, *acknowledgment* 環境に記述します。

```
¥documentclass[paper]{jaciiiarticle}

¥SetVolumeNumber{巻数、番号}
¥setcounter{page}{ページ番号}

¥title{英語タイトル}
¥author{ローマ字著者名一覧}
¥address{ローマ字読みaddress}
¥dates{投稿日}{受領日}
¥markboth{header出力の著者名}{header出力のタイトル}

¥begin{document}
¥pagestyle{jaciiistyle}
¥maketitle

¥begin{abstract }
abstract
¥end{abstract}

¥begin{keywords}
keywords
¥end{keywords}

原稿の内容

¥begin{acknowledgment}
%% 謝辞原稿の内容(省略)%%
¥end{acknowledgment}
¥begin{thebibliography}{??}
¥bibitem[]{}
¥bibitem[]{}
¥end{thebibliography}
```

図1 原稿の構成

3. 図表

図表の出力位置は原則として上に集めています。表のキャプションは表の上に左寄せ、図のキャプションは図の下に書いてください。

```
¥begin{figure}
¥begin{center}
¥epsfig{file=xxxx.eps,width=90mm}
¥end{center}
¥caption{図の説明文...}
¥end{figure}
```

```
¥begin{table}
¥caption{表の説明}
¥begin{tabular}{lcr}
表の内容
¥end{tabular}
¥end{table}
```

取り込みが可能な図の形式はepsとjpgファイルのみです。取り込みにはgraphicxパッケージ、またはepsfigパッケージのいずれかを用いてください。図はソースファイルを置いているtop directoryの下にfigというsubdirectoryを作成して置いてください。Directory構

造については、6. ファイルの提出 について 詳しく述べ
ます。

PostScript ファイル中では以下のPS フォントのみ
を用いてください。 ”

Courier, Courier-Bold,
Courier-Oblique, Courier-BoldOblique,
Helvetica, Helvetica-Bold,
Helvetica-Oblique, Helvetica-BoldOblique,
Times, Times-Bold, Times-Italic, Times-BoldItalic
Symbol, ZapfDingbats,
中ゴシックBBB, リウミンライトKL

その他のPS, TrueType, OpenType のフォントを利用
される場合は必ずアウトライン化してください。

図や写真の取り込みについてのその他の注意点です。
線画は、文字の大きさや線の太さが、本文の文字の
大きさとバランスが取れるような大きさで取り込ん
でください。

写真およびスクリーンを多用した編状のパターンは
著者のプリンタと印刷会社の機器の解像度の違いな
どによって、黒くつぶれたり、意図しない線が見え
る場合があります。

*図表の番号を本文で参照する際には

文頭の場合 {**Figure 1**}, {**Table 1**}

文中の場合 {**Fig.1**}, {**Table 1**}

のように**bf**を用いてください。

4. 数式

数式は文書の幅をはみ出しやすいので、特に注意して
ください。アメリカ数学学会(AMS) のスタイルファイルの
使用`amsfonts` スタイルなどを用いて利用できる以下のフォ
ントは利用可能です。

msam5, msam6, msam7, msam8, msam9, msam10
msbm5, msbm6, msbm7, msbm8, msbm9, msbm10

5. References: (参考文献)

BibTEX を使わない場合

本誌の`\bibitem` の記述は以下のとおりです。

```
\bibitem{jml:86} J. R. Quinlan, ...
```

掲載順は、引用順です。

文献を複数引用する場合は[3][4], [3][4][5][6] の様にせ
ず[3,4][3-6] のようにまとめてください。

Defaultでcite packageを使いますので、

```
\cite{ref:1,ref:2,ref:3}
```

のようにすれば[1-3]と表示されます。

8.2 BibTEX を使う場合

使い方は、参考文献の所定の箇所に

```
\bibliography{btxsample} %% .bib ファイル名
```

```
\bibliographystyle{jsai} %% jsai.bst スタイルの指定
```

と指定します。

データベース.bib ファイルの例を図2 に示します。

```
@Article{jml:86,  
author = "J. R. Quinlan",  
title = "Induction of Decision Trees",  
journal = "Machine Learning",  
year = 1986,  
volume = 1,  
pages = "81--106"  
}  
@Book{tex:1,  
author = ".Otohe, and S.Eguchi"  
title = "LaTeX2 for WINDOWS"  
publisher = "Soft Bank Company",  
year = 1997  
}
```

図2 .bib ファイルの例

6. ファイルの提出について

原稿およびファイルの提出については「原稿執筆案内」、ホー
ムページの各種案内特に電子ファイルによる投稿についてを
ご参照ください。ここではファイルの提出の際の注意点を挙
げます。

原稿のTEX ファイルは、メインのファイルにインクルードま
たはインプットするのではなく、必ず1本にまとめてください。著
者独自のマクロは原則として使わないでください。必要やむ
終えない場合には使ったマクロのコンパイルに必要なソース
コードを必ず添付してください。

なお、使用されるパッケージで、一般サイトにないものを使う
ときは必ず原稿と共に使ったスタイルファイルを添付してくだ
さい。ただし、最終組版の段階でそれらパッケージが使えなく
なることもあります。

特殊なパッケージを使用される場合は十分な配慮をお願い
致します。

図のps およびeps ファイル,BibTEXの生成する
bbl ファイルも必ず添付してください。

なお、提出すべきファイルには以下のようなdirectory構造を
作ってください。

```
main directory / fig  
texソースファイル eps, jpegなどの画像ファイル  
bblファイル(必要な場合)
```

eps,jpegについてはソースファイルを置いたdirectoryの下に
figというdirectoryを作成して、その中に配置してください。